

ご使用に際しては、説明書の
注意事項をよく読んで下さい。

正立型・蛍光顕微鏡

MT6000 series

取扱説明書



この度は、正立型蛍光顕微鏡 MT6000 シリーズをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 ご使用前にこの使用説明書をよくお読みの上、正しくご使用いただき、末永くご愛用下さい。
 この使用説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧下さい。

目 次	ページ
はじめに	3
1. 各部の名称	4
2. 組立て方法	5-7
3. 明視野観察の手順	8
4. 蛍光観察の手順	9
5. 各部の操作・調整（明視野観察）	
5-1. 透過LED照明の点灯	10
5-2. 眼幅調整	10
5-3. 視度調整	10
5-4. 焦準装置	11
5-5. メカニカルステージ	11
5-6. コンデンサ	12
5-7. 油浸対物レンズの使い方	13
6. 各部の操作・調整（蛍光観察）	
6-1. フィルタースライダー	14
6-2. 紫外線カットフィルター	14
6-3. 視野絞り	14
6-4. 開口絞り	14
6-5. フィルターキューブ切替ダイヤル	15
6-6. 蛍光フィルターキューブ	15-16
6-7. フィルターキューブの取付方法	17
6-8. ハイパワーLED照明装置	18
7. 各部の操作・調整（蛍光観察）	
7-1. デジタル一眼レフカメラの取付け方法	19
7-2. C マウントカメラの取付方法	20-21
8. ヒューズの交換（透過照明）	22
9. 手入れの方法	22

はじめに

この取扱説明書のマークは、下記の通りです。

【危険事項の表示】

-  警告：人が障害を負ったり、物的障害の発生がある注意事項を説明しています。
-  注意：軽傷または中程度の障害、物的障害が発生する可能性がある注意事項を説明しています。

警 告

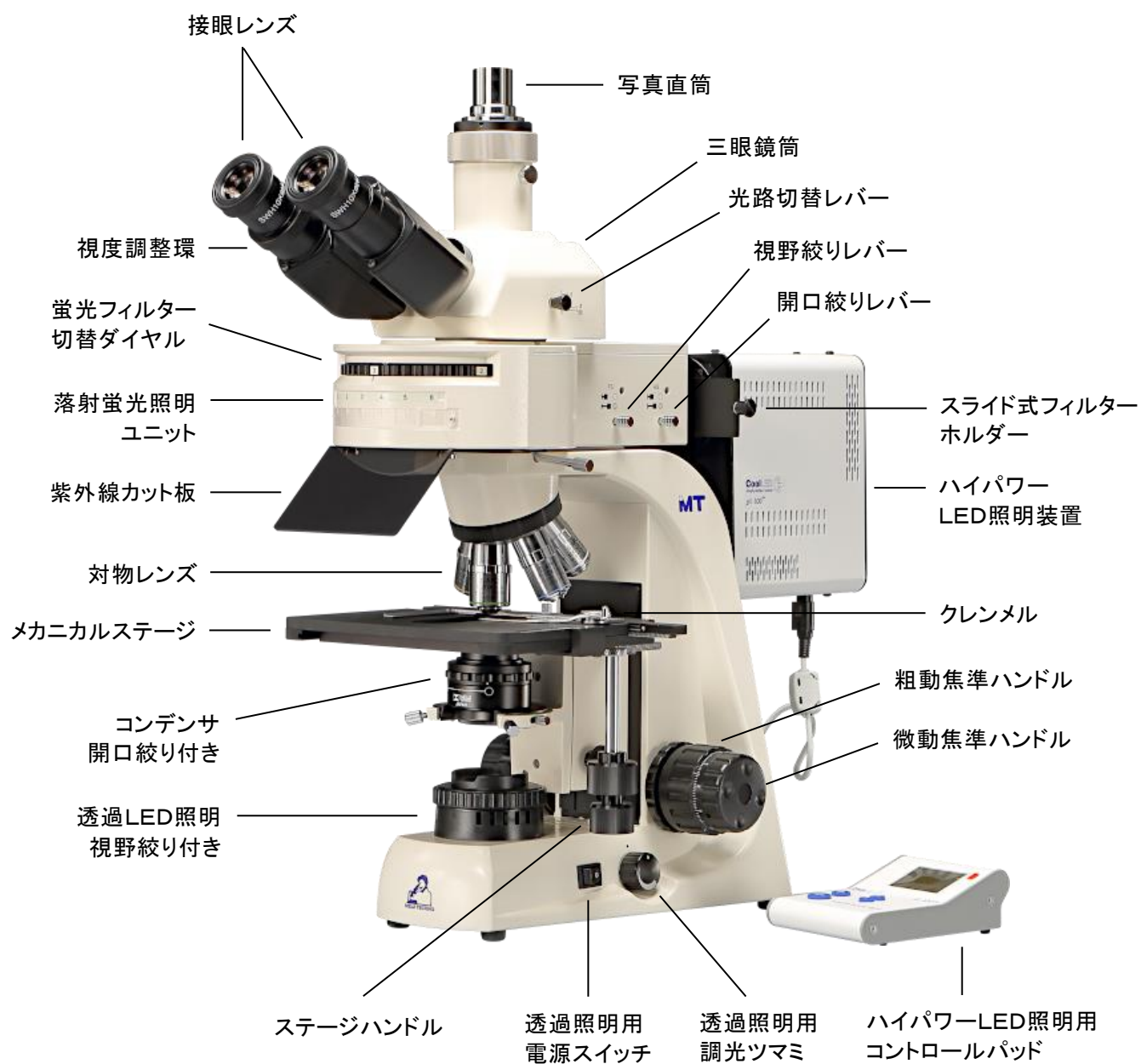
- 照明装置の使用時は、引火性の高い溶剤や薬液を近づけないこと。

注 意

- 本器は精密機械です。衝撃を与えないよう丁寧に扱って下さい。
- 本器を直射日光、高温多湿、ほこり、振動のある場所での使用は避けて下さい。
- 照明の放熱は自然対流式です。設置の際に周りに十分な空間(10cm 以上)を保って下さい。
- 移設などの移動の際には、各部の固定ネジをしっかり締め、接眼レンズを外し、接眼筒に接眼筒保護キャップを取り付けて下さい。鏡体を持つと破損の原因となりますので、持たないで下さい。
- レンズ類についたホコリは拭き取らずに、柔らかい毛筆やブロアーで吹き飛ばして下さい。
拭き取りは、ゴミによりレンズに傷が付く場合があります。また、指紋や油汚れは、レンズクリーニングペーパーや脱脂綿に少量の無水エタノールを含ませて軽く拭いて下さい。
- レンズ以外の各部清掃は、中性洗剤を薄めてガーゼなどに少量を含ませて、軽く拭いて下さい。
溶剤を使用すると、塗装が剥がれる可能性があります。
- 使用しないときは、付属のビニールカバーを鏡体部にかけて、ホコリを避けて下さい。
- 機器の分解や改造をしないで下さい。感電や故障の原因となります。
- コードを無理に曲げたり、重いものを載せたり、熱器具に近づけないで下さい。コードが破損して感電の原因になります。
- コードを抜くときは、コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いて下さい。コードが破損して感電の原因になります。
- 照明が点灯している状態で、接続プラグを抜かないでください。感電や火傷の原因になります。

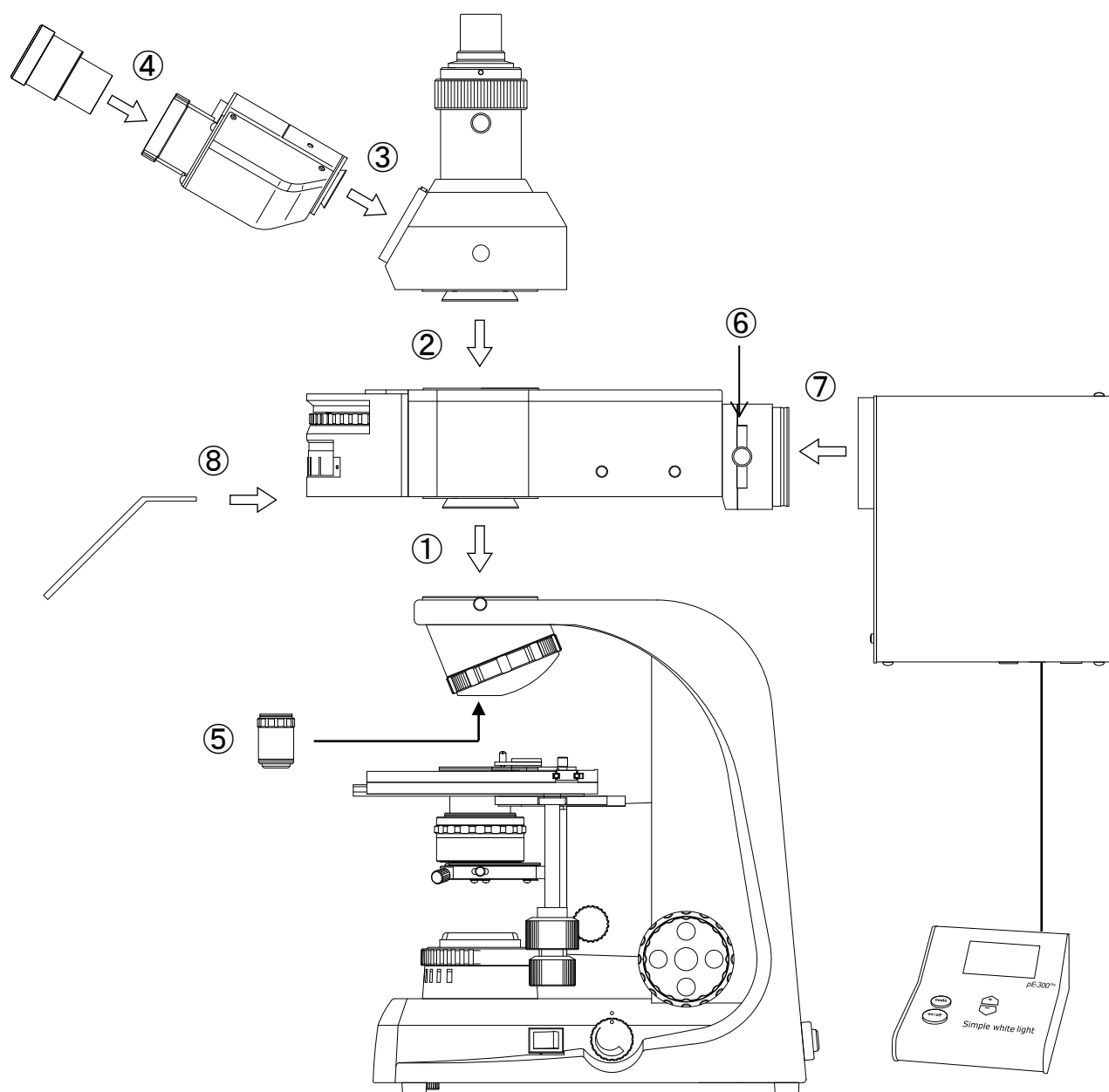
※ 本品の廃棄に関しては、各自治体の指導に従って処分して下さい。

1. 各部の名称



2. 組立て方法

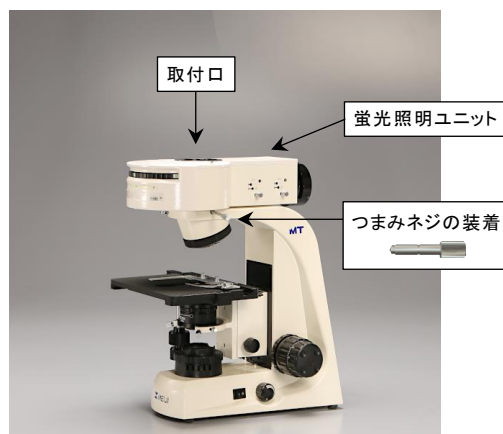
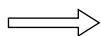
■ 概略図



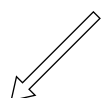
① 落射蛍光照明ユニットの取付け



ボディ部の取付口に蛍光照明ユニットをはめ込みます。



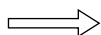
取付口側面にあるネジ穴に付属のつまみネジを差し込んで締めます。



② 三眼鏡筒の取付け



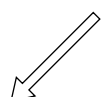
蛍光照明ユニットの取付口に三眼鏡筒をはめ込んで、付属の六角レンチ 2.5mm でネジを締めます。



③ 双眼部の取付け



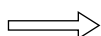
三眼鏡筒の取付口に双眼部をはめ込んで、付属の六角レンチ 2mm でネジを締めます。



④ 接眼レンズの取付け



双眼部に接眼レンズを差し込みます。



⑤ 対物レンズの取付け

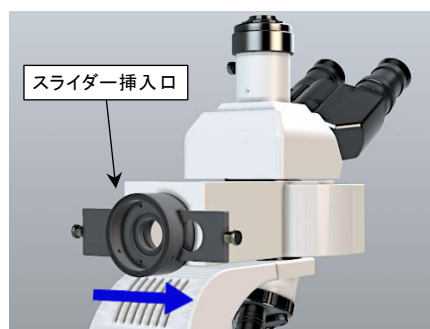


対物レボルバに低倍率から順番に対物レンズを取り付けます。

⑥ フィルタースライダーの取付け



フィルタースライダーの両端にツマミがあるので、どちらか一方を取り外します。

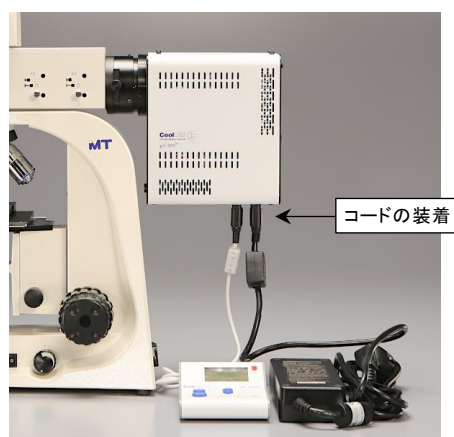


ツマミを外した側よりスライダー挿入口に差し込みます。その後、外したツマミを取付けて下さい。

⑦ ハイパワーLED 照明装置の取付け



光源取付口にハイパワーLED 照明装置を差し込みます。付属の六角レンチで取付口周囲のネジ(三か所)を締めます。



LED 照明装置の下部にあるソケット挿入口にコントロールパッドと AC アダプターのコードを差し込みます。

⑧ 紫外線カット板の取付け



蛍光照明ユニット正面下部にあるクランプネジに紫外線カット板を差し込み、ネジを締めます。

3. 明視野観察の手順

- ① 電源コードを顕微鏡のプラグとコンセントに接続します。

 必ず電源スイッチが OFF (○) の状態で行ってください。

- ② 電源スイッチを ON (I) にして、電源を入れます。

- ③ 調光ツマミを回して、照明の明るさを弱くします。

 眩しい場合は、すぐに眼を離して照明を暗くして下さい。

⇒ P.10 参照

- ④ 蛍光照明ユニット正面のフィルターキューブ切替ダイヤルを 6 番に設定します。

- ⑤ 接眼レンズを覗きながら眼幅調整を行います。

⇒ P.10 参照

- ⑥ レボルバを回して 10 倍の対物レンズを光路に入れて下さい。

- ⑦ クレンメルを開き、カバーガラスを上にして標本をセットします。

粗動 & 微動焦準ハンドルを回しながらピントを合わせます。

また、ステージハンドルを動かして、試料を視野の中心に移動させます。

⇒ P.11 参照

- ⑧ 接眼レンズの視度調整を行います。

⇒ P.10 参照

- ⑨ コンデンサの心出しを行います。

⇒ P.12 参照

- ⑩ 開口絞り、視野絞り、照明の明るさを調整します。

⇒ P.12 参照

- ⑪ 対物レンズを切り替えて、ピントを合わせます。

⇒ 再度、⑨～⑩の調整を行います。

4. 蛍光観察の手順

注意

- ハイパワーLED 照明装置の照射光は、絶対に直視をしないで下さい。
紫外線を含む高出力 LED 光源を使用しているので、照射光を直視すると目に重大な傷害を負う危険性があります。
- ハイパワーLED 照明は、標本に強い光を照射します。
ボリュームを上げすぎると蛍光の褪色が早くなりますので、ご注意下さい。

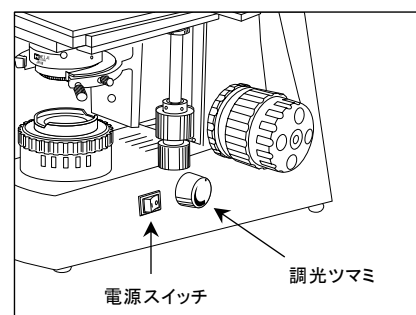
- ① 事前に明視野観察の手順 ①～⑩を実施して、透過照明を消灯します。
- ② ハイパワーLED 照明装置の電源コードをコンセントに接続します。
- ③ コントロールパッドの液晶画面が表示されたら、ボリューム調整ボタン  or  を押して光量を 10%程度に設定します。(電源ボタンは OFF のままで大丈夫です。)
⇒ P.18 参照
- ④ 蛍光照明ユニットのフィルターキューブ切替ダイヤルを回して、観察したい励起法のフィルターキューブを光路に入れます。
⇒ P.15 参照
- ⑤ 蛍光照明ユニットの視野絞りと開口絞りを全開にします。
⇒ P.14 参照
- ⑥ コントロールパッドの on/off ボタン  を 1 回押して、照明を点灯させます。
接眼レンズで標本を覗きながら、ボリューム調整ボタン  or  を一回ずつ押し続けて適切な明るさに設定します。
なお、長押しすると一気にボリュームが上下するので、十分に注意して下さい。
⇒ P.18 参照
- ⑦ 視野絞りと開口絞りの調整を行います。
⇒ P.14 参照

5. 各部の操作・調整（明視野観察）

5-1. 透過 LED 照明の点灯

- ⚠ 電源コードの脱着は、電源スイッチが OFF (○) の状態で行って下さい。
- ⚠ 透過 LED 照明が眩しい場合は、すぐに照明光から眼を離して照明を暗くして下さい。

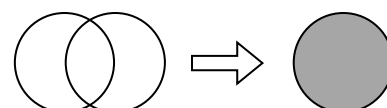
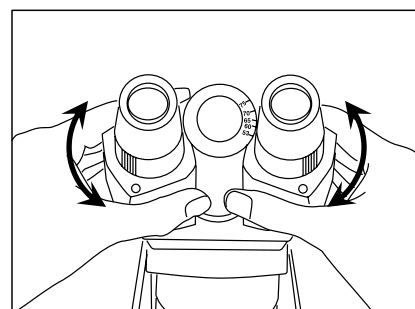
- ① 電源コードを顕微鏡のプラグとコンセントに接続します。
- ② 電源スイッチを ON (|) にします。
- ③ 調光ツマミを時計方向に回すと明るくなります。
半時計方向に回すと暗くなります。



5-2. 眼幅調整

接眼レンズを両眼で覗きながら、両眼の視野が一つの円になるように調整します。

左右の双眼部を両手でつかみ、外側へ開いて間隔を広げるか、中心方向に寄せて間隔を狭めるかして、視野像が完全に一つの円になるように調整します。



5-3. 視度調整

- ① 右側の接眼レンズを覗いて、標本にピントを合わせます。
- ② 左側の接眼レンズを覗いて、標本にピントが合っているか確認します。
- ③ ピントが合っていない場合は、視度調整環（左側のみ）を左右どちらかに回しながらピントを合わせます。



5-4. 焦準装置

■ 焦準ハンドル:

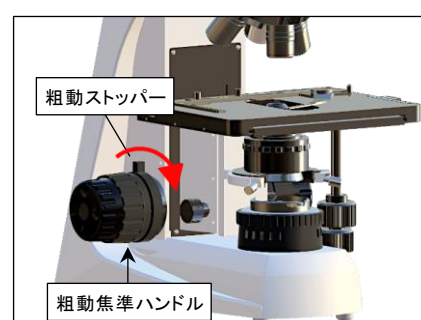
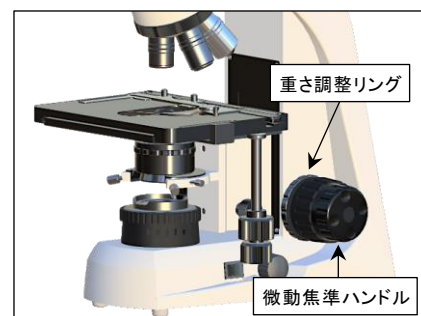
粗動(内側)と微動(外側)の焦準ハンドルがあります。
正面から見て奥側の方向に回すとステージが上昇して、
手前側の方向に回すとステージが下降します。

■ 粗動ハンドルの重さ調整:

右側の焦準ハンドル付け根に粗動ハンドルの重さ調整
リングがあります。時計方向に回すと粗動焦準ハンドルの
回転が重くなり、反時計方向に回すと軽くなります。

■ 粗動ストッパー:

対物レンズと標本の衝突を防ぐための機能です。
ピントが合った位置で粗動ストッパーを手前に倒すと、
ロックが掛かります。この位置で粗動ハンドルの上方向
の回転が止まります。ただし、微動ハンドルにはロックが
掛からないので、ピントの微調整が可能です。



5-5. メカニカルステージ

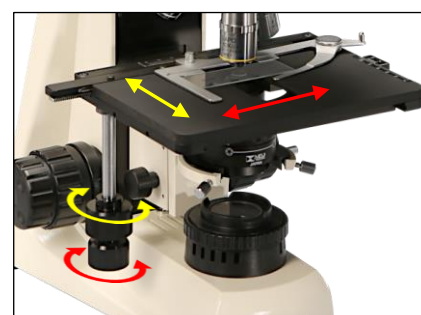
■ 標本のセット:

- ① 対物レンズとの接触を避けるために、粗動焦準ハンドルを
手前に回してステージを下げます。
- ② クレンメル開閉レバーをつまんでクレンメルを開きます。
- ③ 標本のカバーガラス側を上にしてステージに載せます。
クレンメルのガイド奥まで標本を滑らせてセットしたら、
クレンメルをゆっくりと閉じて標本を固定します。



■ 標本の移動:

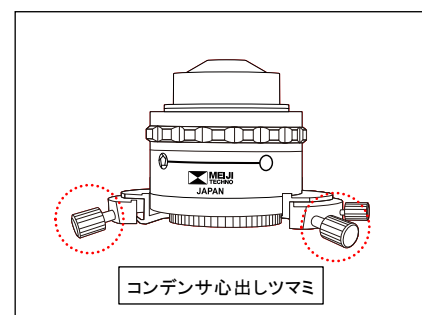
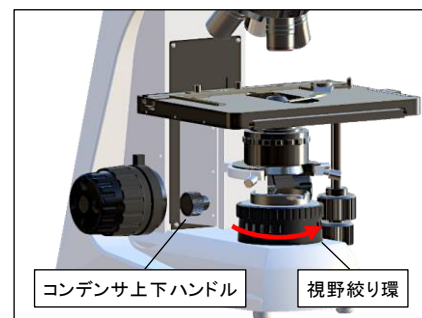
- ① ステージハンドル上部のY軸ハンドルを回すと、標本が
前後(Y方向)に移動します。
- ② ステージハンドル下部のX軸ハンドルを回すと、標本が
左右(X方向)に移動します。



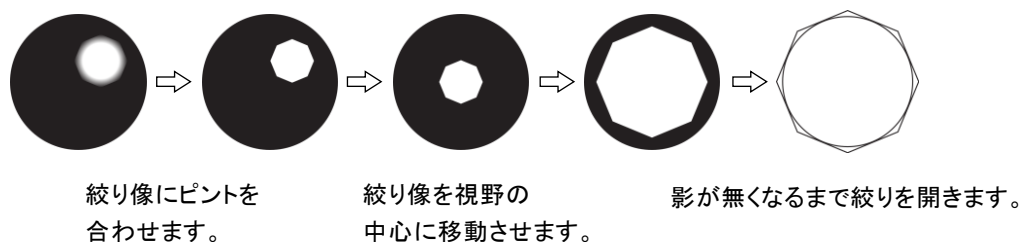
5-6. コンデンサ

■ 心出し調整

- ① 対物レンズ 10X を使用して標本にピントを合わせます。
- ② 視野絞り環を反時計方向に回して、視野を最小まで絞ります。
- ③ コンデンサ上下ハンドルを奥側に回して、一番上まで持ち上げます。接眼レンズで覗きながら、視野絞り像がはっきりと見えるまでコンデンサを下げます。
- ④ コンデンサ心出しツマミ(2 か所)を回して、視野絞り像を視野の中心に移動させます。
- ⑤ 視野絞り環を時計方向に回しながら、絞り羽(影部分)が見えなくなるまで視野絞りを開きます。
- ⑥ 偏心している場合は、再度心出し調整を行って下さい。

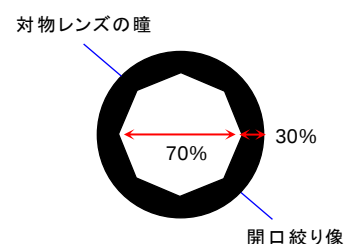
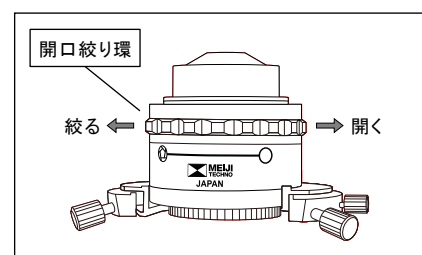


[視野絞り像の見え方]



■ 開口絞りの調整

- ① 開口絞り環を反時計方向に回して、絞りを全開にします。
- ② 左右どちらかの接眼レンズを外して筒を覗くと、対物レンズの瞳(明るい円形)が見えます。
- ③ 開口絞り環を時計方向に回して絞り込むと、対物レンズの瞳に開口絞り像が見えてきます。
- ④ 開口絞りは、対物レンズの瞳に対して約 70～80%程度に絞ると、コントラストの良い像が観察できます。
- ⑤ 上記の調整は、対物レンズごとに行います。



5-7. 油浸対物レンズの使い方

対物レンズ 100X は、油浸対物レンズです。

標本と対物レンズ先端の空間を付属のイマージョンオイルで油浸して使用します。

※イマージョンオイルは、必ず付属の当社製のものをご使用下さい。

[観察手順]

- ① 低倍率の対物レンズから順に、高倍率の対物レンズまで標本にピントを合わせていきます。
- ② 100X 油浸対物レンズを光路に入れる前に、標本の観察部にイマージョンオイルを点着します。
- ③ レボルバを回して 100X 油浸対物レンズを光路に入れ、微動ハンドルでピントを合わせます。
オイルに気泡が入っていると像の見えが悪化しますので、気泡が入らないように注意して下さい。
気泡の除去は、レボルバを少し回して対物レンズを1～2回往復させます。
- ④ 使用後は、レンズ先端に付着しているオイルを拭き取ります。
オイルを拭き取るには、石油ベンジンを使用して下さい。最後に無水エタノールを使うと、きれいに仕上がります。石油ベンジンが手に入らない場合は、無水エタノールをご使用下さい。ただし、無水エタノールは洗浄力が弱いため、何回か繰り返して拭き取る必要があります。(通常、3～4回できれいに拭き取れます。)

⚠ イマージョンオイルの注意点

- 眼に入ったり、皮膚に付着した場合は、以下の対処を行って下さい。
 - ▶ 眼 : すぐにきれいな流水で十分に洗い流して下さい。(15 分以上)
 - ▶ 皮膚 : 石けんを使用して、十分に洗い流して下さい。

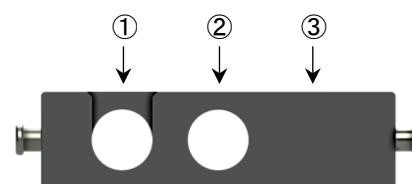
※ 外観に変化がある場合や痛みがある場合は、医師の診察を受けて下さい。

6. 各部の操作・調整（蛍光観察）

6-1. フィルタースライダー

ツマミを押し引きして、3 ポジションで切替が可能です。

- ① 左側 … フィルター装着用スロット（※）
- ② 中央 … ダイレクト照明用の空洞
- ③ 右側 … 照明遮断用シャッター



正面から見た位置関係

※付属の ND13 フィルター（平均透過率 12.5%）を装着します。

6-2. 紫外線カットフィルター

対物レンズから照射された紫外線が、標本に反射して目に入る可能性があります。目のダメージを防ぐために、この紫外線カットフィルターを必ず装着して下さい。

なお、樹脂で出来ているので、衝突による割れなどの破損に十分注意して下さい。



6-3. 視野絞り

照明を当てる範囲を調整することが出来ます。

視野絞りレバーを外側に引くと絞りが閉じていき、内側に押し込むと絞りが開いていきます。通常は、視野絞り像の影が見えなくなるまで視野絞りを開くと、コントラストの良い像が得られます。



6-4. 開口絞り

観察像の明るさ調整やコントラスト向上に使用します。

開口絞りレバーを外側に引くと絞りが閉じていき、内側に押し込むと絞りが開いていきます。通常は、対物レンズの瞳に対して 70～80% 程度に絞ると、コントラストの良い像が得られます。

6-5. フィルターキューブ切替ダイヤル

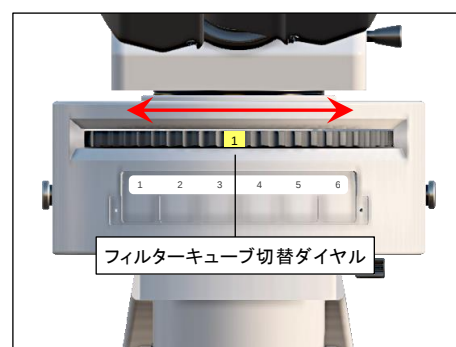
蛍光照明ユニットには、標準で3個の蛍光フィルターキューブが装着されています。

正面側のフィルターキューブ切替ダイヤルを回して、希望する観察に適した蛍光フィルターキューブを光路にセットして下さい。

また、蛍光フィルターキューブは、5個まで装着することが出来ます。標準で装着スペースが2カ所空いているので、オプションの蛍光フィルターキューブを追加装着することが可能です。

■ 切替ダイヤルの内訳

番号	蛍光フィルターキューブ
1	UV 励起 (ultraviolet)
2	B 励起 (blue)
3	G 励起 (green)
4	空
5	空
6	透過照明用

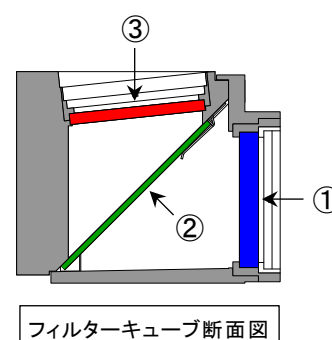


6-6. 蛍光フィルターキューブ

本モデルは、標準で3種類(UV 励起, B 励起, G 励起)の蛍光フィルターキューブが装着されています。

キューブ内には、「励起フィルター」、「ダイクロイックミラー」、「吸収フィルター」が組み込まれており、励起タイプの種類毎に波長特性が異なります。

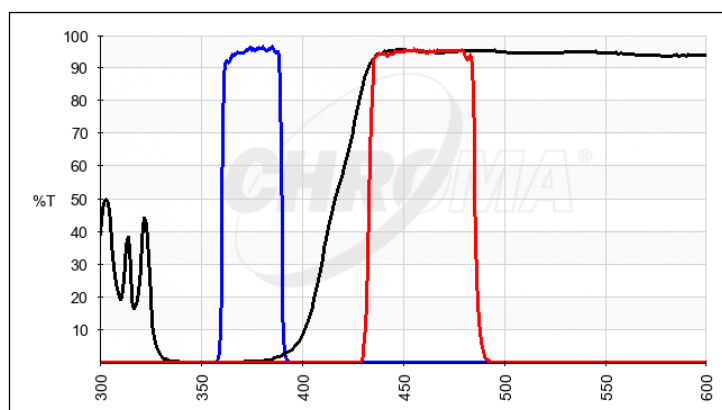
なお、蛍光フィルターキューブ3種類の仕様は、下記の表を参照して下さい。



- ① 励起フィルター
② ダイクロイックミラー
③ 吸収フィルター

励起タイプ	励起フィルター	ダイクロイックミラー	吸収フィルター	対応する蛍光色素
UV 励起	375/28	415	460/50	DAPI, Hoechst AlexaFluor350
B 励起	480/30	505	515	GFP FITC Longpass
G 励起	540/25	565	575	TRITC Cy3 Longpass

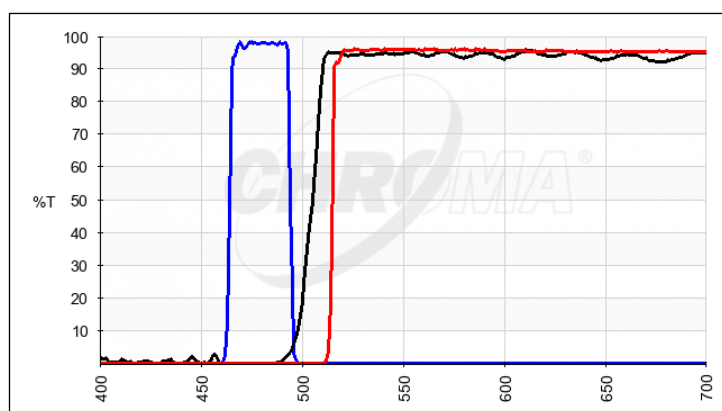
■ 蛍光フィルターセットの透過率・波長特性



UV 励起

- ▶ EX : 375/28
- ▶ BS : 415
- ▶ EM : 450/50

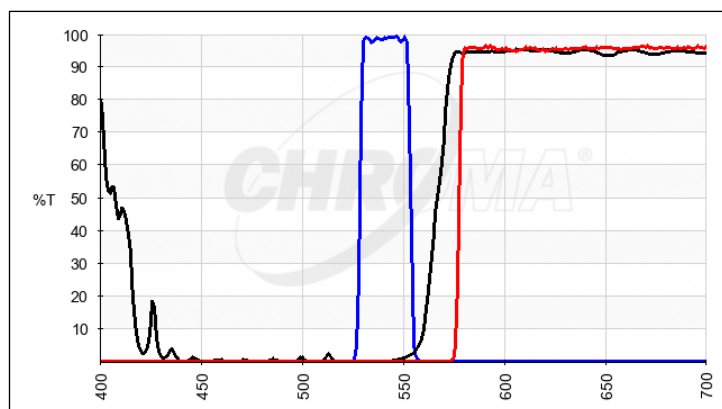
Chroma Technology 社製
No.39000



B 励起

- ▶ EX : 480/30
- ▶ BS : 505
- ▶ EM : 515

Chroma Technology 社製
No.19002



G 励起

- ▶ EX : 540/25
- ▶ BS : 565
- ▶ EM : 575

Chroma Technology 社製
No.19004

- ▶ EX = 励起フィルター
- ▶ BS = ダイクロイックミラー
- ▶ EM = 吸収フィルター

6-7. フィルターキューブの取付方法

- ① プラスドライバーを使用して、ダイヤルカバー上部のネジ(4ヶ所)を外して下さい。その後、ダイヤルカバーを正面に向かって引き抜いて取り外します。

- ② 蛍光照明ユニット本体を上下反転(裏返し)にします。

- ③ 光路は切替ダイヤル正面の反対側にあります。

ダイヤル番号①に切替えた時、実際のフィルターは④の位置に装着されています。

標準では、ダイヤル番号④と⑤が空いているので、オプションの蛍光フィルターキューブは、①と②の位置に追加装着が可能です。

※ダイヤル番号⑥は透過照明用です。③の位置を空にして、ハイパワーLED照明が入射しないように遮光板を設置しています。

- ④ 切替ダイヤルの中心部にフィルターキューブ装着用のアリガタ(台形の突起)があります。その上部にある固定ネジを六角レンチ 2.5mm で緩めて下さい。

- ⑤ 蛍光フィルターキューブを上下反転させます。側面の商品名表示が逆向きの状態です。

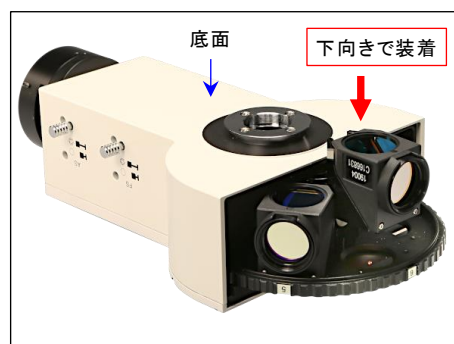
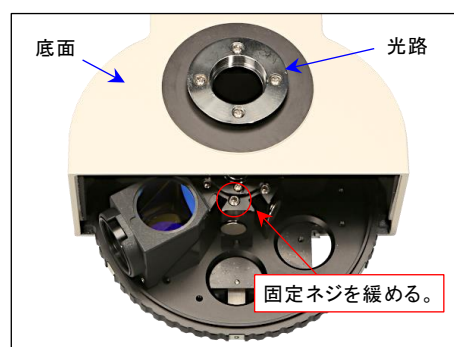
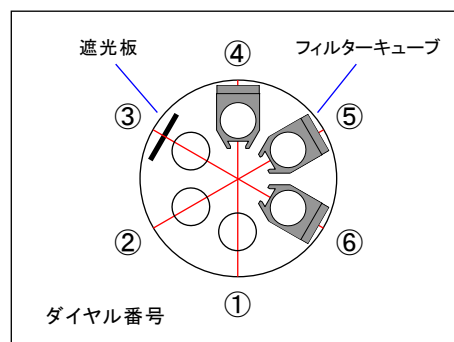
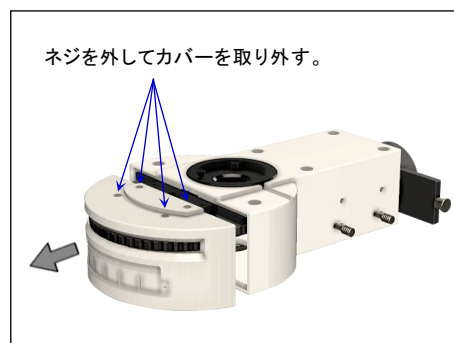
※上下の向きを間違えると、正しく観察できません。

- ⑥ 蛍光フィルターキューブのアリ溝(台形の溝)部分を切替ダイヤル中心部のアリガタに合わせて、奥までしっかりと押し込みます。その後、アリガタ上部の固定ネジを六角レンチ 2.5mm で締めて下さい。

※固定ネジが緩んでいると、フィルターキューブとカバーが干渉して、切替ダイヤルが回転出来なくなります。

- ⑦ 蛍光フィルターキューブの取付けが出来ましたら、蛍光照明ユニットを上下反転させて本来の向きに戻して下さい。

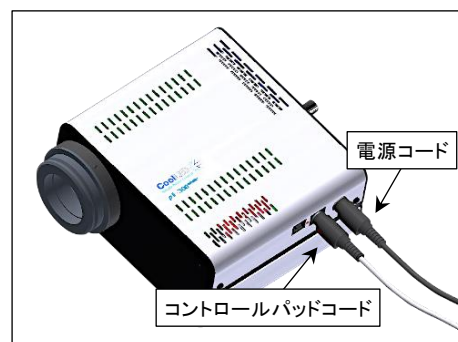
ダイヤルカバーを被せて、初めに取り外したネジ 4 本をプラスドライバーで取り付けて下さい。



6-8. ハイパワーLED 照明装置

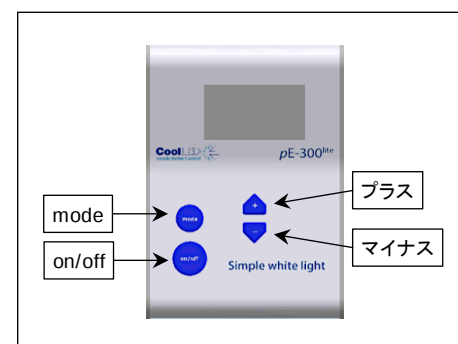
■ 照明の点灯：

- ① 光源本体に、AC アダプターとコントロールパッドのコードを接続します。
- ② コントロールパッドの液晶画面が起動します。
- ③ ON/OFF ボタン  を 1 回押すと照明が点灯します。
消灯する場合は、ON/OFF ボタン  を再度 1 回押します。



■ 照明の光量調整：

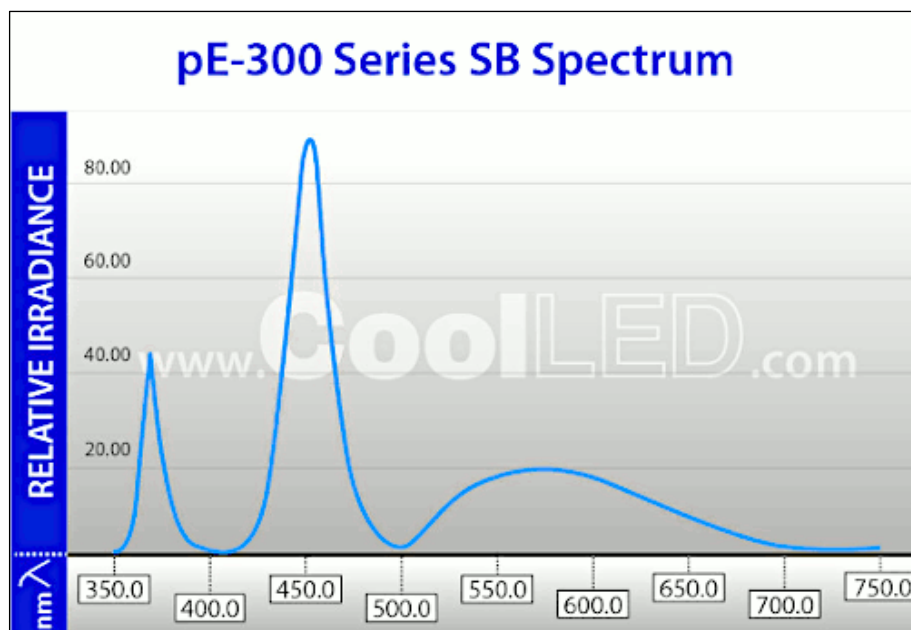
プラスボタン  を押すと LED 照明の光量上がり、
マイナスボタン  を押すと光量が下がります。
光量調整は、0～100 の間で1%単位の調整が可能です。
光量調整ボタンと長押しすると一気にボリュームが上下するので、十分に注意して下さい。



■ 液晶画面の明るさ調整：

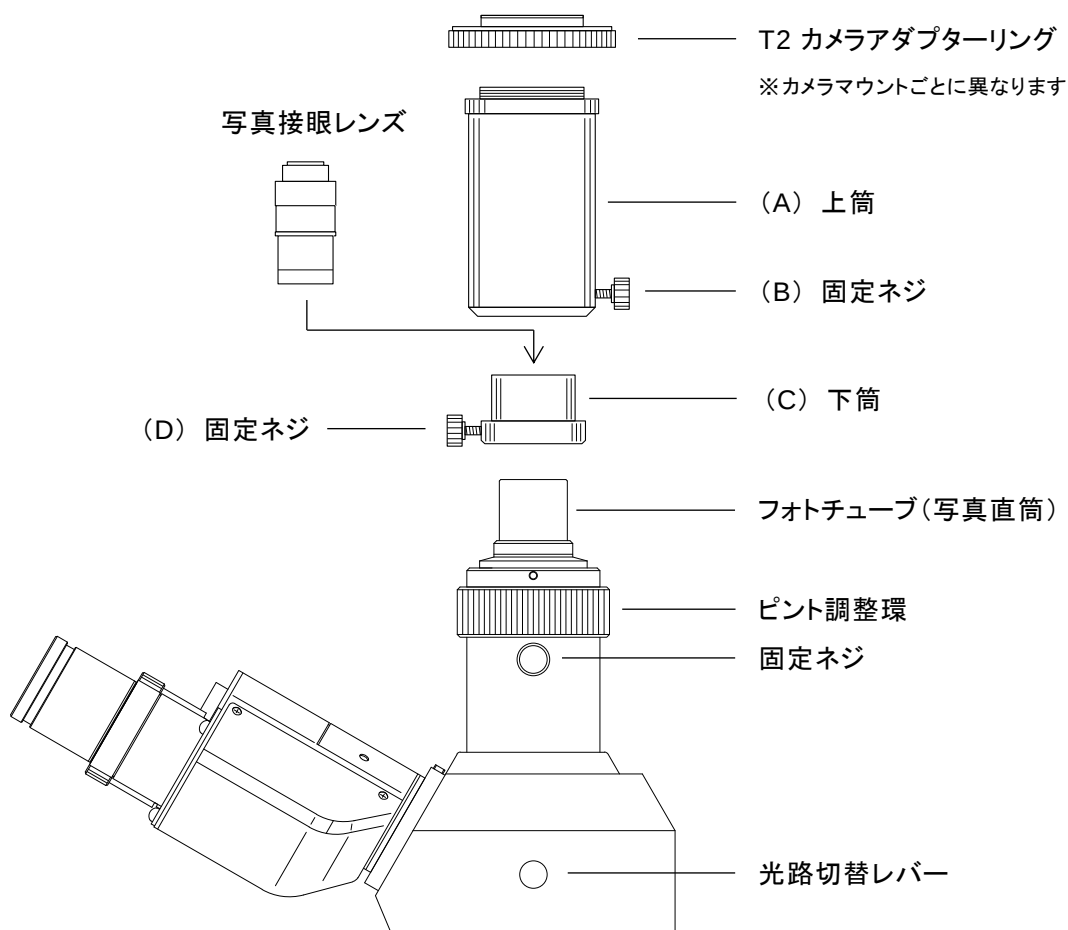
mode ボタン  を 3 秒長押しします。
画面が Settings に切替わるので、プラス or マイナス
ボタンを押して調整して下さい。メイン画面に戻るには、
mode ボタンを 3 秒長押しするか、10 秒待ちます。

▼ ハイパワーLED 照明装置の発光スペクトル



7. カメラの取付方法

7-1. デジタル一眼レフカメラの取付方法



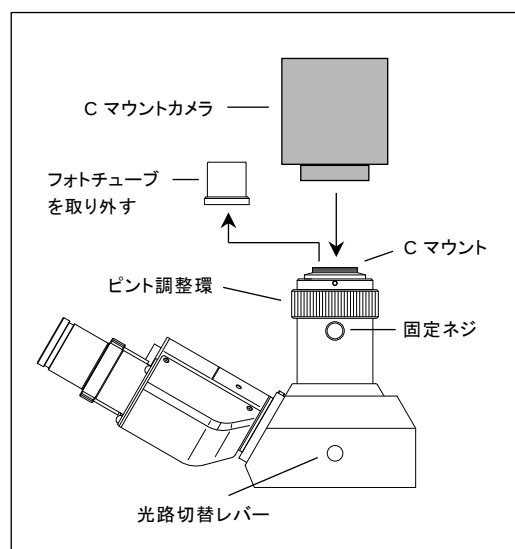
- ① 固定ネジ(B)を緩めて、上筒(A)・下筒(C)を分離して下さい。
- ② 下筒(C)を三眼鏡筒のフォトチューブ(写真直筒)に被せて、固定ネジ(D)を締めます。
- ③ 下筒(C)の中に「写直接眼レンズ」を挿入して下さい。
- ④ 使用するカメラに合った T2 アダプターリングを上筒(A)の頭部にねじ込んだあと、一眼レフカメラのマウント部に T2 アダプターを接続します。
- ⑤ 次に、そのカメラと T2 アダプターを装着した上筒(A)を下筒(C)に被せ入れ、向きを整えてから固定ネジ(B)を締めます。
- ⑥ 接眼レンズを覗いて標本にピントを合わせます。この状態でカメラ側のピントが合っていない場合は、三眼部の固定ネジを緩めて、ピント調整環を左右に回しながらピント調整を行います。最後にカメラの向きを整えて、固定ネジを締めて下さい。

※ カメラ観察を行う場合は、光路切替レバーを外方向に止まるまで引いて下さい。

7-2. C マウントカメラの取付方法

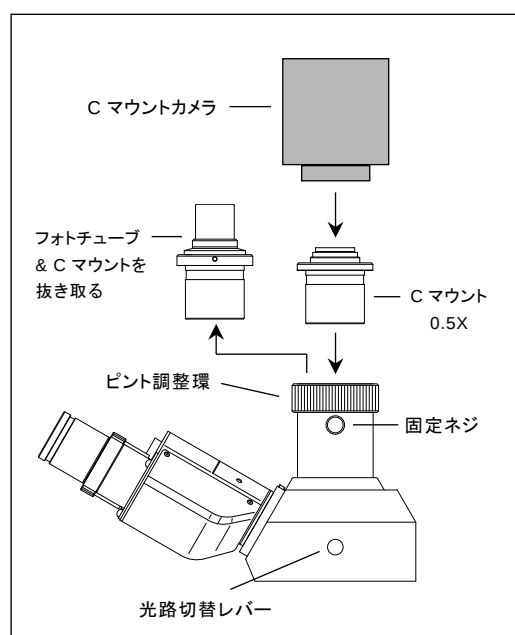
■ 標準付属の C マウントアダプター(レンズなし)

- ① フォトチューブ(写真直筒)を反時計回りに取り外すと、レンズなしの C マウントアダプターとなります。
- ② C マウント上部の外ネジにCマウントカメラの内ネジを合わせて、時計回りに装着します。
- ③ 接眼レンズを覗いて標本にピントを合わせます。
この状態でカメラ側のピントが合っていない場合は、三眼部の固定ネジを緩めて、ピント調整環を左右に回しながらピント調整を行います。
- ④ カメラの向きを整えて、固定ネジを締めて下さい。



■ MT シリーズ専用 C マウントアダプター 0.5X

- ① 三眼部の固定ネジを緩めて、フォトチューブ + Cマウントアダプターを三眼部から抜き取ります。
- ② 「C マウントアダプター 0.5X」を三眼部の筒内に差し込みます。
- ③ C マウント上部の外ネジにCマウントカメラの内ネジを合わせて、時計回りに装着します。
- ④ 接眼レンズを覗いて標本にピントを合わせます。
この状態でカメラ側のピントが合っていない場合は、三眼部の固定ネジを緩めて、ピント調整環を左右に回しながらピント調整を行います。
- ⑤ カメラの向きを整えて、固定ネジを締めて下さい。

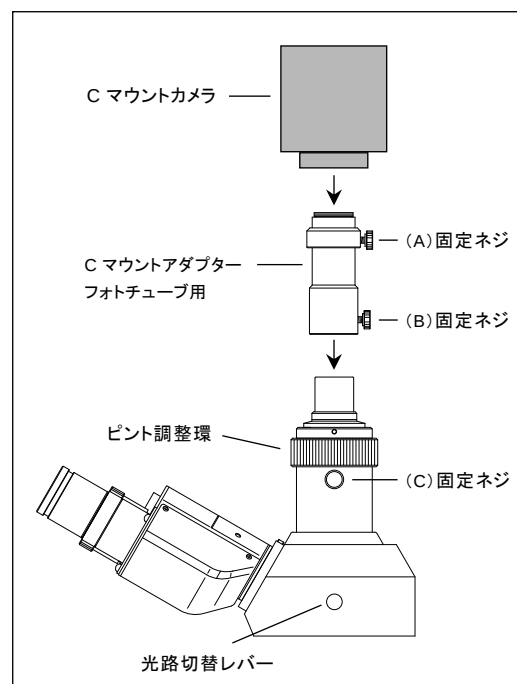


※ カメラ観察を行う場合は、光路切替レバーを外方向に止まるまで引いて下さい。

※ カメラの操作方法については、カメラ付属の使用説明書をご覧ください。

■ フォトチューブ専用 C マウントアダプター

- ① Cマウントアダプター上部の外ネジにCマウントカメラの内ネジを合わせて、時計回りに装着します。
- ② C マウントアダプターの固定ネジ(B)を緩めて、
フォトチューブの奥まで差し込みます。
向きを整えて固定ネジ(B)を締めます。
- ③ C マウント上部の外ネジにCマウントカメラの内ネジを
合わせて、時計回りに装着します。
- ④ 接眼レンズを覗いて標本にピントを合わせます。
この状態でカメラ側のピントが合っていない場合は、
三眼部の固定ネジ(C)を緩めて、ピント調整環を
左右に回しながらピント調整を行います。
- ⑤ カメラの向きを整えて、固定ネジを締めて下さい。



※ カメラ観察を行う場合は、光路切替レバーを外方向に止まるまで引いて下さい。

※ カメラの操作方法については、カメラ付属の使用説明書をご覧下さい。

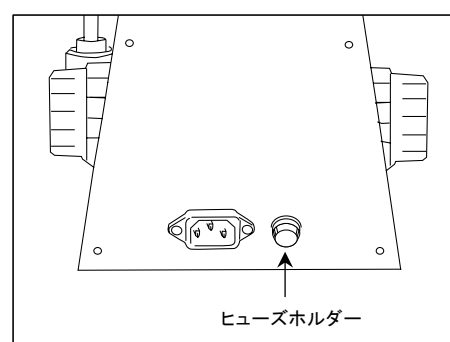
8. ヒューズの交換（透過照明）



注意

- 必ず指定のヒューズをご使用ください。指定のヒューズ以外を使うと、火災の原因となります。
- ヒューズ交換は感電事故および火傷を防止するため、必ず電源スイッチを OFF にして、電源コードをコンセントおよび顕微鏡から抜いて下さい。

- ① 鏡体背面の下部にヒューズホルダーがあります。
フタ部の切込みにマイナスドライバー等で押し当てて、反時計方向に回しながらフタ部とヒューズを引き抜きます。
- ② ヒューズを入れ替えます。その時、ヒューズのガラス部を指紋などで汚さないように、ビニールなどで掴んで下さい。
- ③ フタ部とヒューズをヒューズホルダーに差し込み、マイナスドライバー等で時計方向に回して固定します。



9. 手入れの方法

顕微鏡は、適切に取り扱い手入れを行えば、長期間使用することができます。

顕微鏡の大敵は、湿気、直射日光、ホコリ、ゴミ等です。接眼レンズや対物レンズについたホコリは、決して布で拭き取らないで、ブロアーなどで吹きとばして下さい。

また、油汚れは脱脂綿やレンズクリーニングペーパー（※）に無水エタノールを付けて拭き取って下さい。

機械部分が壊れた場合は、お客様で分解修理を行わないで下さい。当社工場にて修理を承りますので、当社までご連絡をお願いいたします。

使用後は、ホコリ除けのビニールカバーを被せて、湿気のない所に保管して下さい。

※ 参考商品：レンズクリーニングペーパー

- ・ダスパー K3
- ・ダスパー Σ（シグマ）

（製造元：小津産業株式会社）

ご不明点がございましたら、メールまたはお電話、FAX にてご連絡ください。

Mail **meiji@meijitechno.co.jp**

Tel **049-259-0111**

Fax **049-259-0113**

メイジテクノ株式会社

〒354-0043

埼玉県入間郡三芳町竹間沢 322-1

<http://www.meijitechno.co.jp>

